



# 夢が広がる全線開通



山陰道は、平成29年度に朝山・大田道路(6.3km)が、平成30年度に多伎・朝山道路(9.0km)が開通予定となっています。構築されつつある島根県的高速道路ネットワークについて、「社会インフラの整備」が専門で、自らも高速道路を利用する機会の多い松江工業高等専門学校の高田龍一名誉教授にお話を伺いました。

## 産業の振興や生活の向上に大きな役割

### ——高速道路ネットワークが島根にもたらす効果とは？

地方において、高速道路ネットワークの役割は非常に大きいものがあります。例えば、出雲大社の大遷宮や、松江城の国宝化で観光客が増えています。これは尾道松江線の開通による押し上げ効果が非常に大きいと調査結果から分かっています。観光ばかりでなく、企業誘致や取引先の拡大等にも大きな影響をもつ高速道路は、産業を振興するうえで重要な役割を担っています。また、高速道路は大規模災害時の代替道路になるほか、救急搬送や旅行、通勤・通学等、私たちの暮らしの質の向上にも大きな影響を与えます。県東部の皆さんはひと足先に高速道路ネットワークにつながっていますから、その効果を実感できているのではないのでしょうか。

## 人が少ない地方にこそ道路が必要

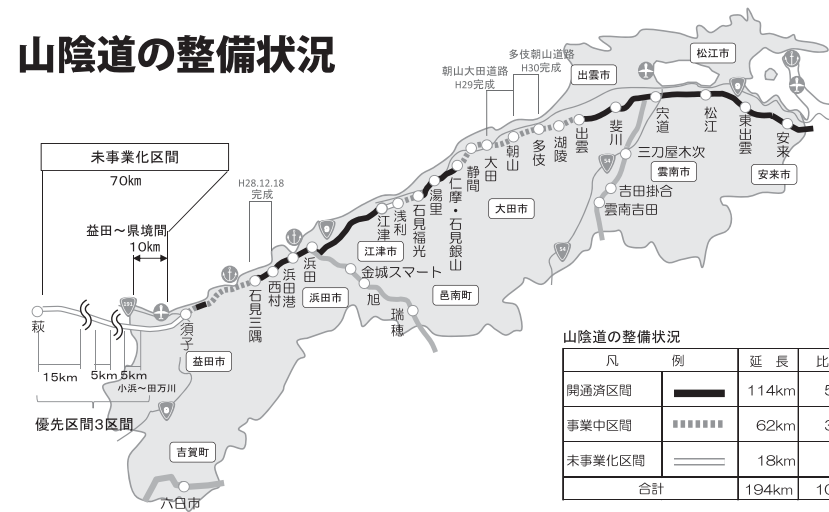
### ——山陰道の整備率はまだ59%です。今後への期待は？

「人口が少ない地域の道路はムダ」といった話をよく耳にしますよね。しかしそれは逆なんです。道路が繋がることにより、他の圏域や都市圏と繋がる。病院や図書館などの公共施設、商業施設、企業団地が繋がる。今まで活用されなかった地域資源へもアクセスしやすくなって、観光の面でもプラスになる。UIターンを考える人にとっても、基礎的インフラといえる高速道路があるかないとでは大きな違いがあります。私の専門である教育・研究の面でも高速道路が無いことは大きな障害となっています。

「産業があるところに道を作る」「道があるから産業が興る」これまで前者の考え方が優先されてきたのではないのでしょうか。これから地域が活性化を競いあうためにも道の整備は不可欠です。

現在、山陰道の整備は着実に進められていますが、県西部はまだまです。人口減少が著しい県西部にこそ高速道路が必要であることを、私たち一人一人が島根県民全体の問題として考え、一日も早い山陰道の全線開通を訴えていく必要があります。

## 山陰道の整備状況



松江工業高等専門学校名誉教授  
**高田龍一氏**

昭和54年 京都大学大学院 修了  
昭和62年 京都大学農学博士 取得  
平成16年 松江工業高等専門学校教授  
平成27年 松江工業高等専門学校 退職  
平成27年 松江工業高等専門学校名誉教授  
現在 島根県大田市 在住